

10-2 中学校 2年生社会科[地理的分野] 指導事例 「鎌倉の防災について考えよう」(身近な地域)

【単元目標】

- ・ 観察や調査などを通して、身近な地域に対する理解と関心を高めさせる。
- ・ 鎌倉の防災という話題から、地域を生活、自然環境、歴史文化などの面から迫り、また住民、産業に関わる人、観光客などのいろいろな見方から検討することにより、よりよい地域をつくっていくにはどうしたらよいかについて自分の考えをもつ。

【目指す子どもの姿】

学習課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分の考えをつくり、他者との話し合いにより自分の意思を決定していく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全7時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>私たちが生活する鎌倉とはどのような街なのか知ろう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地形図や街の情報誌などから街の姿を知る。 S: 鎌倉には住民以外に観光客の人がたくさんいる。特に海外の人が多い。 S: 平日よりも休日の方が駅は混んでいる。休日の渋滞がすごい観光地だ。 S: 歴史的な街として有名だけど、住宅の開発も進んでいるね。 S: 大きな災害が起きると大変な被害が出そうな地域だ。 	
<p>大規模災害が発生したときの状況を予想しよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に発生する災害について考える。 S: 大きな地震が発生した後、数分で鎌倉の街に津波が来ると聞いたよ。 S: 鎌倉の街は山に囲まれ、谷戸が多い地域だから、がけ崩れが怖い。 S: 災害時、住民だけでなく観光客も含めて避難するのは難しい。 	
<p>鎌倉の防災について調べてみよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉の防災について調べて課題を見つける。 S: 鎌倉には津波避難場所に適した高い建物がないような気がするけど。 S: 谷戸など道路の狭い地域の火災はどうするのだろうか。 S: もしもの時、外国人観光客の避難は大丈夫なのかなあ。 	<p>情報を収集する</p>
<p>これからの鎌倉について話し合おう②(授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉を安心・安全な街にするためにはどうしたらよいか話し合う。 S: 景観も大切だが、津波対策として高い建物をもっと必要だと思う。 S: 安心・安全な街づくりと、自然や歴史的なものの保存の両立は難しい。 	<p>自分の考えを再構築する</p>
<p>地域の中で自分ができることを考えよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを生かし、これから私たちができることを考える。 S: いろんな立場の人にとって、よりよい地域を考えていかないといけないと思う。 	<p>自分自身を振り返る</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自ら情報を得る場面を設定しましょう。

行政機関発行の資料やそこで働く人の話、地域の人の意見を調査し、実際の声を聞くことが重要です。特に、議会制民主主義を採用している我が国では、課題に対して地方議会がどのような対策をとろうとしているのかを調べさせることが大切です。

ポイント2

対立するであろう事象を意図的に取り入れましょう。

地域学習をするうえで、対立する見方や考え方に気付かせ、合意形成を目指していく難しさや必要性を実感させることが大切です。

本単元では、「津波対策の高層建築物と歴史的景観」「土地開発による住宅地の建設とがけ崩れの危険」「狭い道がある地域の防災と区画整備による自然破壊」「住民の暮らしと地域の産業や観光客の利便性」といった対立が考えられます。これらの対立を中心にして、多面的・多角的に課題をとらえさせ、自分の考えを形成させていくことが大切です。そして他者との意見の交換をとおして、地域づくりには話し合いが不可欠であることを気付くようにすることが大切です。また地域の課題の中には、人々の努力によって両立を実現している事象も存在するので、単純に賛否を問う形で話し合いを進めるのではなく、社会参画をしていく姿勢を十分に育てられるように進めていくことが重要です。

学習展開例（第5、6時）

T：「谷戸の狭い地域の火災についてはどうしていけばよいのだろう。」

S：「狭い道には消防車が入れないので、谷を削ったり道を広くしたりすることが必要だと思います。安心安全な暮らしの前では、環境を変えていくことも仕方がない。」

S：「防災のためとはいえ、山を切り開くのは鎌倉の街としてよくないのではないか。」

T：「谷戸の防火活動について、現在の地域の対策をしっかりと資料を調べてみよう。」

S：「狭い道の地域では、消火活動にたくさんの工夫がされていることが分かった。」

S：「どちらかを優先ということ以外にも方法はあるみたいだ。」

T：「一見対立しそうなことでも、そこに関わる人たちの工夫と努力によって解決していることがありますね。そのような点にも注目していきましょう。」

ポイント3

学習を振り返らせる場面をつくりましょう。

単元で学習したことをふまえて、公民的分野で学習する単元「地方自治」につながる資料を作成することにより、より実践的な学習が期待されます。

また総合的な学習の時間で実際に学校の避難ルートを考えさせたり、外国語の授業で海外からの観光客向けの防災マップをつくったりするなど、横断的な学習を展開させる工夫が必要です。

この指導例は 63 ページ「13 指導例の実践」で実際の授業の様子を掲載しています